

平成29年度 宇都宮市自転車のまち推進協議会

日 時 平成30年3月27日（火）午前10時から午前11時45分

場 所 宇都宮市役所14A会議室

出席者 別紙名簿参照

内 容 1 開会

2 委員紹介

3 議事

(1) 「宇都宮市自転車のまち推進計画後期計画」の平成29年度の取組内容と平成30年度の取組予定について

(2) 自転車走行空間の取組状況とその効果検証結果について

(3) 中心市街地における自転車利用実態調査について

(4) 自転車通勤促進基礎調査について

4 講話

・ 自転車活用推進法と自転車施策のあり方について

株式会社三井住友トラスト基礎研究所 研究理事 古倉 宗治 氏

5 その他

6 閉会

【主な発言・意見】

議事

(1) 【「宇都宮市自転車のまち推進計画後期計画」の平成29年度の取組内容と平成30年度の取組予定について】

<会長>

- ・ 事務局から、今年度の取組内容と来年度の取組予定について、説明を頂いた。
- ・ 小学生とその保護者を対象にヘルメット着用・損害賠償保険加入促進のチラシを今まで配付していたが、自転車事故が多い年代である中学生と高校生に自転車のルールを周知するため、新たにチラシを作成したことはとても良い取組である。

<委員>

- ・ 中心市街地の駐輪環境向上について、これから議事3で具体的な説明があると思うが、自転車利用者は目的地のすぐ近くに駐輪場があることを望んでいることから、駐輪場整備は大規模より、数台でも構わないがいろいろな所に駐輪場が設置されていた方が利用しやすい。

- ・駐輪場を整備するときは、統一したデザインにし、駐輪場だとすぐに判別できるようにしてほしい。デザインについては、大学生からの提案など検討してみてもどうか。

<会長>

- ・「駐輪が愉快だ宇都宮」などブランドの「愉快ロゴ」なども良いと思う。
- ・今年度の取組でも説明があったが、放置自転車の保管場所を「中央1丁目自転車駐輪場」に移転したのは、良い取組である。

議事

- (2)【自転車走行空間の取組状況とその効果検証結果について】
- (3)【中心市街地における自転車利用実態調査について】
- (4)【自転車通勤促進基礎調査について】

<会長>

- ・事務局から、議事2から議事4について、説明を頂いた。
- ・自転車走行空間の整備については、約40km整備されたと説明があったが、この距離は市道のみでの整備であり、国道、県道も含めればさらに整備が進んでいる。
- ・中心市街地の駐輪環境向上については、自転車利用者の立場になって整備していくことも必要である。
- ・自転車通勤促進については、本市では自動車利用が依然多く、自転車の役割がなかなか認識されていないのではないかと思う。

<アドバイザー>

- ・矢羽根型路面表示では危険との意見もあるが、実際、自転車走行空間を整備したことにより、自動車の走る位置が中心寄りになり、自転車が安全に利用できるようになっている。このことを市民へ広く広報していくと自動車が配慮して運転していることに対する理解が進んで良いのではないか。
- ・通勤・通学や買い物など目的別の駐輪位置や目的地から駐輪位置までの距離の限界を徒歩1分あたり80mに換算し、整備箇所を検討していく必要がある。
- ・買い物利用と通勤・通学利用とでは、放置自転車の迷惑度が違う。商店街の方は、買い物目的で店の前に自転車を放置しても迷惑とは思わない。目的別に分析した方が良かったのではないか。
- ・自転車通勤促進については、福島市や静岡市で自動車通勤者を対象にアンケート調査を実施し、自動車通勤の7割が5km圏内であり、そのうち3分の2が自転車通勤へ転換が可能であるとの回答であった。実際の通勤者にも通勤実態や自転車通勤の可能性等についてのアンケート調査があることが望ましい。

- ・通勤に伴う交通事故の危険性については、自動車通勤の交通事故も多いことから、自転車と自動車の事故件数を比較して分析しても良かったのではないかと。福島市及び静岡市では、自動車の交通事故の方が危険だと感じている企業も多い。

<会長>

- ・自転車の交通事故は自転車走行空間の整備路線においては、過去から比較して4割ほど減少している。
- ・アンケート調査した際、どこの店に行く人がどこに駐輪しているかの分析ができているか。店の位置と放置自転車の位置と密接に関係している。

<事務局>

- ・ヒアリング調査とアンケート調査を実施しており、アンケート調査については、自転車にアンケート調査票をくくりつけて調査を実施したため、把握が困難であるが、ヒアリング調査については、把握可能である。

<会長>

- ・自転車通勤のアンケート調査は、企業に対する調査であったことから、企業の立場に立った回答になっており、従業員の立場に立った場合は、回答が異なるのではないかと。自転車通勤をしている従業員にアンケート調査をするとまた異なった結果になると思う。

<委員>

- ・宇都宮ブリッツェンは企業からの要望で自転車通勤者を対象に交通安全教室を開催している。実際は、自動二輪を利用した通勤者が多い。
- ・アンケート調査で企業が自転車通勤を推奨しない理由について、「特に理由がない」と回答している企業が圧倒的に多かったが、自転車通勤による従業員の健康増進などメリットを周知していけば、企業も自転車通勤を推奨しやすくなるのではないかと。

<会長>

- ・自動二輪を利用した通勤と自転車での通勤では、それぞれどのように考えているか。

<委員>

- ・自動二輪はあまり乗らないため、自動二輪の目線に立った考えについては、あまり分からないが、自動二輪は自動車と同様に車道の中央を走行できる。また、自動二輪はスピードが出やすいこともあり、自動二輪と自転車では、厳密には違うと思う。

<会長>

- ・通勤のすべてを自転車にするのではなく、後期計画の施策の柱でもある「つながる」にもあるようにLRTを始めとした公共交通とつながる「サイクル・アンド・ライド」も視野に入れて検討していく必要がある。

その他

<委員>

- ・先日、「ツール・ド・とちぎ」が皆様の御協力により、無事開催できた。
- ・日本の自転車産業は衰退している。自転車の販売店は多いが、製造メーカーがなくなってきていることも認識していかなければならない。

<会長>

- ・これまで日本が培った産業技術活かし、日本で自転車産業が復活することを望む。